



地域との「対話と連携」

五月二十二日の朝日新聞高知版に、長岡郡大豊町で始まった『ちいき計画』作成の話題が取り上げられていました。その見出し文には、「限界」の町 独自計画で挑む」、「高知・大豊 国の農地集約方針に違和感」、「地域の課題」「住民と解決」目標 魅力再発見も」とあります。以下、記事を要約すれば、次の様な内容です。

「農林水産省は、耕作放棄の可能性のある農地を集約し、大規模農家を育てることを念頭に、目指すべき農地利用を盛り込んだ「地域計画」の提出を、全国の市町村に求めているが、これに対し、平坦な土地がほとんどなく、担い手もない現状から、大豊町では農地の集約は現実的でなく、より実態に即した計画が必要と判断、国の「地域計画」と並行して町独自の『ちいき計画』（ひらがな地域計画）づくりを始めた。町内八五集落を一〇エリアに分けて、農業のみならず地域の諸課題を共有し、その解決方法を住民と役場と一緒に考えるプロジェクトで、エリアごとの集会では、集落の過去と現在、そして将来を自由に語り合うとともに、昔話にも花が咲き、役場にとっても地域の魅力再発見の機会にもなった。」

記事では、選挙によって選ばれる首長や議員による「住民自治」と、集落ごとに住民が相談しながら進める「集落自治」、二つの自治を取り戻す取り組みになる可能性があるという、研究者のコメントが紹介されています。

当館の地域連携事業は、大豊での試行と理念を共有するものであり、地域が抱える現在の課題を、集落を単位として、現場と密に連携しながら考えることを目指しています。机上だけでなく、地域との対話を通して現地の知恵に学びながら文化施設として何が出来るかを考えていきたいと思っています。我々ができることは微々たるものですが、長い時間をかけてできた地域の人々との信頼関係は、いずれ大きな連携と連鎖を生むのではないかと考えるのです。

(館長 渡部 淳)

城博の活動

「地域学芸員」養成講座

当室では、令和元年度より、毎年、県内三会場において、全一〇回の連続講座として、地域の文化施設等で活躍する人材を養成する講座を開催しています。「地域学芸員」養成講座」と銘打った本講座は、博物館学・資料保存・資料取扱・資料調査・普及・広報・古文書解読など、博物館で日々行われている様々な活動に関連する内容で構成されています。講座を行うに当たっては、ただの技術習得講座にならないように、座

学を通じて、それぞれの場面で気をつけるべき心構え等も伝えていきます。近年では、当館が地域資料の調査を行う際、講座受講者にも参加を呼びかけ、実際の調査現場において、講座で身につけた知識や技術を活かす、実践的なスキルアップの場を設けることにも取り組んでいます。これまで講座を行った会場からは、「自信を持ってできる作業が増えてうれしい」等の声も届いています。

(主任学芸員 片岡 剛)



養成講座 資料調査実習の様子

地域の取り組み

貝ノ川床鍋集落×高知大学地域協働学部学生 限界集落の「今」を記録する

高岡郡津野町貝ノ川床鍋集落は、かつて林業や炭焼きで栄え、昭和三〇年代には三〇〇人以上が暮らしていました。しかし、高度経済成長期以降、林業の斜陽化に伴い人口が減少し、現在の戸数は三三世帯、人口は七三人(令和二年度「国勢調査」調べ)になっています。

令和三(二〇二二)年、高知大学地域協働学部の学生二人が、研究フィールドとしてこの床鍋集落を選択し、そこで見聞きした集落の日常や、人々の暮らしを後世に伝えたいと、風景・風習・歴史・生活など集落のあらゆるものを調査し一冊の本にまとめました。同時に、取材の過程で収集した膨大な記録映像を整理し、保存する手立てを講じるなど、地域調査で考えるべき課題の一つであるデータ整備にも取り組んでいます。

現在、映像は YouTube チャンネルで公開されており、ポータルサイト「貝ノ川床鍋映像アーカイブ」では映像提供も行われています。

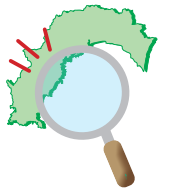
(室長 岡本 麻衣)



活動内容をまとめた本『撮っとこ!床鍋』(前田大我・伊藤美紀 著)

地域の調べ方

高知県の兵士



日本近代史研究では、戦争と軍隊の項目は不可欠です。地域研究においても、戦時体制の研究と合わせて、出身将兵に関する個別情報の収集と分析は必須でしょう。

高知県では、護国神社に本部を置く高知県遺族会が、市町村や戦没地ごとの戦死者の統計分析を行っています。それによれば、日清戦争から昭和二〇（一九四五）年までの約五〇年間の戦死者は、軍属を含め三二、六三一人を数えます。更に個別の事例を知るためには、市町村が編集した自治体史が参考になります。かつての自治体史は、巻末に「英霊」をまとめることが多く、これによって、地域単位での召集と戦死者の傾向を読み取ることができません。また、帰還兵を含む全体を把握するには、戦友会誌や部隊史なども重要です。文献で確認できない場合は、地域の忠霊塔や墓地に赴き現地調査を行います。特に戦死者墓の側面には、出生から戦死までの経歴が詳細に彫りこまれる場合が多く、一兵士の生涯を知ることができます。当然ながら、調査は関係者の許可などの手続きが必要です。高知県の帰還者・戦死者の血縁関係者は、陸軍の場合は高知県庁（地域福祉政策課）、海軍の場合は厚生労働省（社会・援護局）で、兵籍簿や軍歴証明書の発行を申請できます。氏名・官職・叙位叙勲・召集時期・出航港・配属・任官・進級・従軍記録・賞罰・傷病治療・召集解除時期等、時に銃後の者も知り得ない情報が記されています。（渡部 淳）

地域の言葉

校歌



意外なことに、初等教育から高等教育まで、校歌の制定を定めた法律はありません。戦前は、歌詞・楽譜・作曲者などを添えて文部省へ申請、許可を得ていましたが、現在はそれさえも必要ないのです。そういえば、村の古老から、小学校の校歌はなかったという話を聞いたことがあります。しかし、集団生活における一体感や統制心を養うために、校歌の制定は徐々に定着していきます。歌詞には、ある定型のようなものがあります。

まず、「天守のいらか」「鷲尾のふもと」など、具体的な地名などを折り込み、地域の自然や歴史を説明します。次に、学校や地域が求める理念や徳目が謳われます。「一体をきたえ知恵をねり」「勤労の汗たくさんしく」「真理の旗を高らかに」「村は明るく人直き」などです。そして、最後に校名を歌って終わります。校歌は、地域を知るための史料としての意味も持っています。歌詞と楽譜をセットで保存することが必要です。ちなみに、甲子園でも何度か聞いた高知市立高知商業高等学校の校歌「鵬程万里」は、一心に理念を歌い上げた稀有なものです。（渡部 淳）

図書室

岐宇女子大学デジタルアーカイブ研究所編
地域文化とデジタルアーカイブ

（樹村房 二〇一七）



デジタルアーカイブとは、有形無形の歴史・文化資産を「文字」「映像」「画像」「音声」などデジタルの形で記録・保存・蓄積し、誰もが活用できるように公開することを指します。本書は、地域文化資料を題材として、デジタルアーカイブ開発の基礎的な考え方とその利用についてまとめた手引書です。そこで取り上げる資料は、古文書や日記類といった文献だけでなく、祭りなどの年中行事、民話やわらべ歌、さらには戦争体験の口述記録など多岐にわたります。それらを、歴史・民俗・伝統・産業・生活文化といった、地域文化を捉える主な視点ごとに分類し、それぞれの特色に応じたアーカイブ論を、具体的な実践事例とともに紹介しています。また、デジタルアーカイブの第一歩であり、その後の保存や利活用にも大きな影響を与える、カメラやスキャナ、3Dプリンタやドローンなどを用いた記録方法についても、それぞれの手法や留意点が丁寧に解説されており、今後、デジタルを利用した地域研究を考える際の参考となる書といえます。（岡本 麻衣）

活動日録

【令和6年1月～令和7年3月】

- 地域資料相談（3件：高知市・佐川町） ●市町村文化施設相談窓口（3件：安芸市・土佐市・四万十市） ●出張講座 開催（香美市） ●「歴史資料（古文書）調査作業見学会」開催（安芸市・四万十市） ●「地域散策会」開催（四万十町窪川地区） ●「第4回 地域文化講座」開催（講師：仁淀川町・いの町の地域団体） ●「出張ジョークin黒潮町」開催（黒潮町） ●「お城下で見る土佐国～立山神社の棒術・獅子舞～」開催 ●高知市中心市街地との連携「高知まちゼミ実行委員会主催「まちゼミ」へ参加） ●「地域学芸員」養成講座（城博・奈半利町・中土佐町） ●「地域学芸員」養成講座フォローアップ研修（中土佐町） ●所蔵資料目録編成への協力（支援対象館：津野町郷土資料館）

【令和7年4月～8月】

- 地域資料相談（3件：高知市・須崎市） ●市町村文化施設相談窓口（5件：高知市・安芸市） ●南国市国府地区総合調査（国分・比江・左右山地区） ●地域の資料調査への協力（「ルーク・ロバーツ氏特別講演会」（調査成果発表）、「戦後80年記念講座 昭和20（1945）年8月を語る」（調査成果発表）、「土佐神社土蔵資料調査報告会」（調査成果報告） ●地域の歴史・文化活動への協力（「令和7年度 学級・講座運営説明会」（講師派遣）、「地域交流ミニディサービス事業（一ツ橋老人クラブ）」（講師派遣）、障害者施設×文化施設「風のカレンダー」制作（県内関係施設連携）、高知工科大学が取り組むPBLプロジェクトへの協力、「夏休み児童クラブ出張講座」（県内11児童クラブ／高知市・南国市・香南市・土佐市・須崎市・四万十市・土佐清水市・大川村）） ●「城博のGW」にて土佐材ワークショップ・土佐茶のふるまい（産業連携） ●高知市中心市街地との連携「高知まちゼミ実行委員会主催「まちゼミ」へ参加、協同組合帯屋町筋運営「土曜夜市」へ出席、「板垣退助生誕祭」へ参加） ●「移住者・転勤者・新社会人・新入学生のための土佐文化講座」開催 ●「第1回地域文化講座」開催（講師：高知大学准教授 望月良親氏） ●「地域学芸員」養成講座（城博・香南市） ●県内文化施設の連携強化（こうちミュージアムネットワーク事務局 総会出席、高知お城下文化施設の会事務局 総会出席）

地域企画室だより 第3号

発行日：令和7（2025）年9月
編集・発行：高知県立高知城歴史博物館（地域企画室）
〒780-0842 高知県高知市追手筋2丁目7-5
TEL：088-871-1629 / FAX：088-871-1619
HP：https://www.kochi-johaku.jp/



当館ホームページはこちら！

令和7年度「地域講座」のご案内

- ▶地域文化講座 年4回開催 ▶土佐文化講座 年2回開催
- ▶出張講座 年1回開催 ▶地域散策会 年1回開催
- ▶歴史資料（古文書）調査作業見学会 2会場 各1回開催
- ▶「地域学芸員」養成講座 2会場 各10回開催

※順次開催中！詳細は決まり次第、当館ホームページまたはチラシにてお知らせします。